

# Road to Million 2020

一般社団法人 静岡青年会議所  
2015～2024年度 ロードマップ



2020年度 理事長  
やまもと まさひろ  
山本 正博

## 「Road to Million」改定にあたり

一般社団法人 静岡青年会議所  
2020年度 理事長 山本 正博

私たち静岡青年会議所の運動指針である「First Vision」で掲げた「先進100万人都市 輝く静岡」の創造へ向けて、私たち静岡青年会議所は、これまで一步一步確実に歩みを進めて参りました。

時代の変化が目まぐるしく加速する現代社会の中だからこそ、私たちは今一度自らの足元を見つめ直す転換期に差し掛かっていると捉えております。本年度、「First Vision」の具体的な戦術としてロードマップが策定されてから5年が経過します。このまちの未来、子どもたちの将来、静岡の国際化推進、その全てを今まで以上により戦略的に実践していくために、変えるべきものと変えてはならないものを見極める勇気と覚悟をもって行動していかなければなりません。

先人たちの軌跡や私たちの想いを含めた未来を照らす新たな道標が、必ずや「先進100万人都市 輝く静岡」の創造へ繋がっていくと確信しております。

## 目次 table of contents

□理事長挨拶	1
□First Visionとは目的・戦略	3
□ロードマップとは戦術	4
□静岡市が抱える課題と戦略	5 6
□策定当時との背景の変化	7
□SDGsについて	8
□まちの国際化の必要性	9 10
□時代に即した戦略の検討	11 12
□戦略II戦略IIIの見直し	13 14
□ロードマップフローチャート	15 16
□青少年育成への取り組み	
・時代背景や子どもたち一人ひとりの環境を考えた青少年事業	17
・主体性を持てる青少年の育成運動	18
□まちづくりへの取り組み	
・地域コミュニティの再生に貢献する運動	19
・行政との連携強化	20
□JCI日本、JCIの運動・活動への取り組み	
・JCI日本、JCIの運動へのコミット	21
・各種大会誘致への取り組み	22
□会員や組織づくりへの取り組み	
・他団体やまちの人びとを巻き込んだ会員研修・交流	23
・特別会員も含めた歴史ある大きな組織	24
・女性や多様な会員が活躍できる制度づくり	25
・事業の検証システムの構築	26
・アフターJCを楽しもう	27
・会員の拡大	28
□JC運動・活動の発信についての取り組み	
・SNSなどを利用した運動・活動の発信	29
・ブランディングの強化	30
□アクティブシティズンフレームワーク	31 32
□検証の方法と頻度について	33 34
□国際アカデミー誘致の意義とその効果	35 36
□資料集	37 38

## First Visionとは目的と戦略

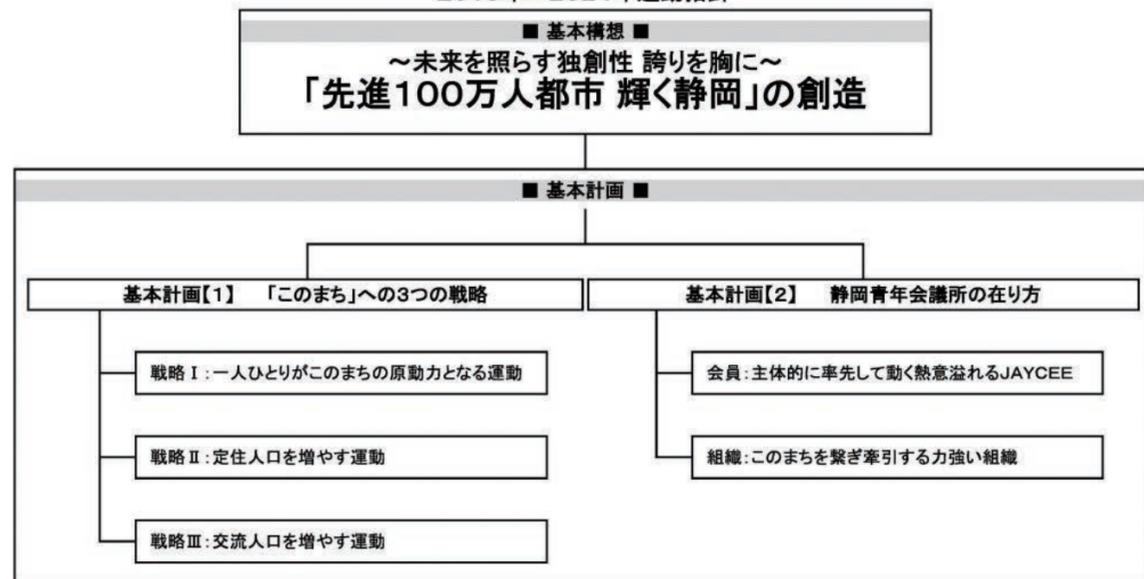
「First Vision」は2014年度に「未来への懸け橋創造委員会」の設営による「ビジョン創案会議」、「ビジョン策定会議」を経て2014年度の総会(12月)において可決されました。翌2015年度には、10周年記念式典において、ご来賓の皆様に向けて発表されました。策定時の「First Vision」は、基本構想(目的)として『～未来を照らす独創性 誇りを胸に～「先進100万人都市 輝く静岡」の創造』、基本計画(戦略)『「このまち」への3つの戦略』と『静岡青年会議所の在り方』によって構成されていました。

### 10周年記念式典とは

2015年6月21日にグランシップで行われた、(一社)静岡青年会議所の創立10周年の記念式典のこと。式典では、(公社)日本青年会議所会頭や静岡県知事、静岡市長が出席され盛大に行われました。



### (一社)静岡青年会議所「First Vision」 2015年～2024年運動指針

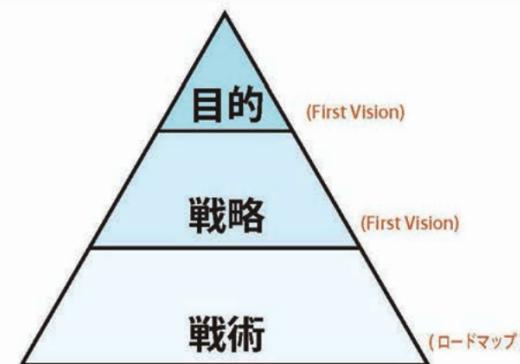
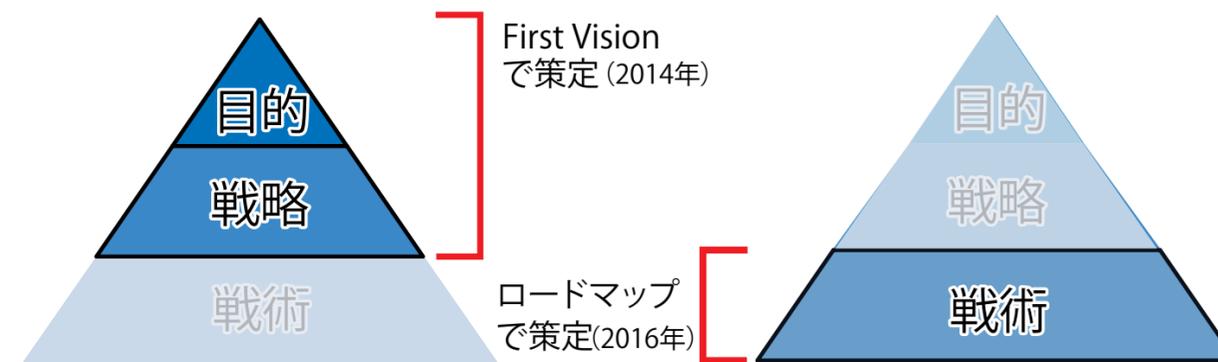


策定時「First Vision」

## ロードマップとは戦術

2016年度にはこの「First Vision」を実現するためのアクションプラン(戦術)が『未来を描くロードマップ創案委員会』を中心として策定されました。これにより目的、戦略、戦術の3つがそろいました。

### First Visionとロードマップは目的・戦術・戦術の三段構成



\*目的と目標の違い  
**目標：(Target)** その目的を達成するために資源を投入する具体的な目的のこと

目的は 100万人都市  
 目標は 静岡の国際化

**目的：(Object)** 達成すべき使命のこと

未来を照らす独創性 誇りを胸に  
 「先進100万人都市 輝く静岡」の創造

**戦略：(Strategy)** 目的を達成するために資源を分配する「選択」のこと

(対外戦略)「このまち」への3つの戦略  
 戦略Ⅰ：一人ひとりがこのまちの原動力となる運動  
 戦略Ⅱ：定住人口を増やす運動  
 戦略Ⅲ：交流人口を増やす運動  
 (対内戦略) 静岡青年会議所の在り方  
 会員：主体的に率先して動く熱意溢れる JAYCEE  
 組織：このまちを繋ぎ牽引する力強い組織

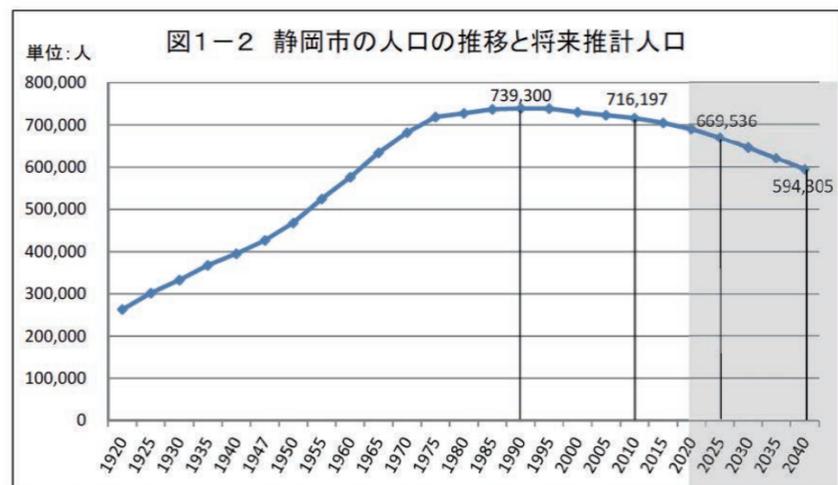
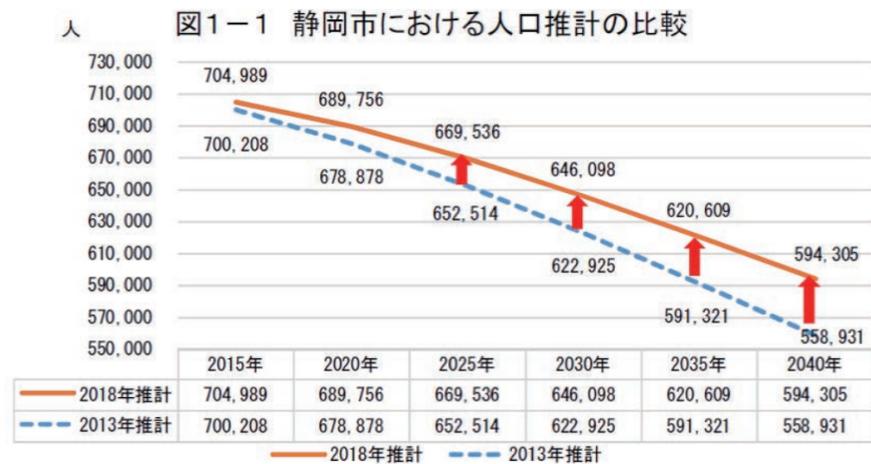
**戦術：(Tactic)** 戦略を実行するためのより具体的なプラン

各アクションプラン

# 静岡市が抱える課題と戦略

## 人口減少

日本は2008(平成20)年をピークに人口減少社会へと転換していますが、静岡市では他の自治体よりも早い1990(平成2)年から人口減少傾向にあります。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2018年3月推計)」

## 少子高齢化

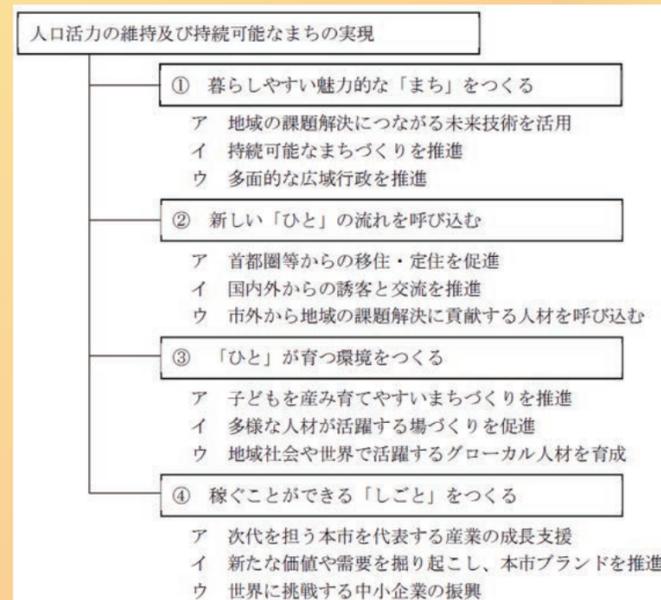
特に静岡市は高齢化率が高く、医療・介護に係る需要や費用の増大など超高齢化社会への対応が喫緊の課題となっております。

また、就業者数の減少や消費の低下、生産性の低下などによる産業・経済に与える影響や、公共サービスに係る負担増だけでなく、納税者層が減少することで財政への影響もでてきます。

今後も少子高齢化と人口減少はますます加速することが予想され、人口減少を前提としたまちづくりが求められています。

## 第3次静岡市総合計画【改定】後期実施計画(令和2年3月)

静岡市はこれらの課題に対して人口増加を前提とした社会システムから改変し、人口減少を前提としたまちづくりにシフトチェンジしました。「定住人口」のみに頼らず、「交流人口」と「関係人口」、そしてSDGsの概念も取り入れ、人口活力の維持とグローバルな地方創生をめざしています。



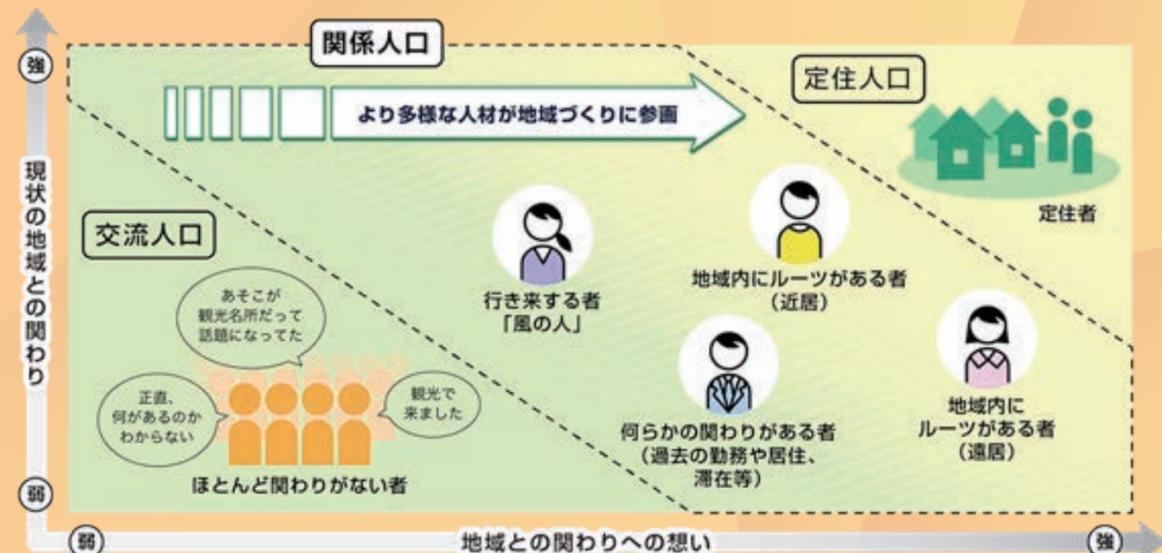
“ 関係人口とは ”

「関係人口」とは「定住人口」でも「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉。人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。

△第3次静岡市総合計画「第2期総合戦略」から抜粋

静岡市では上記の目標を達成するために、「まち+ひと+しごと創生」に沿って4本の戦略の柱に再構築して取り組んでいます。

「ひとづくり」「まちづくり」を重視する静岡青年会議所のロードマップとも方向性が合致しており、今後も行政と一体感をもって運動・活動を進めてまいります。



△総務省『地域への新しい入口「関係人口」ポータルサイト』から抜粋

## 策定当時との背景の変化

### 2014年「First Vision」 2016年「Road to Million2016」

#### 策定当時時代背景

人口減少傾向だった当時は、まだ人口増加を前提とした社会システムが一般的でした。そこで静岡青年会議所が当時100万人都市実現のための手法として選定したのが、このまちの「国際化」でした。特に、当時は2020年の東京オリンピックパラリンピックを軸にラグビーW杯や冬季アジア札幌大会などの国際イベントも控えており、静岡市でも2016年に「日本・スペインシンポジウム」をはじめ、MICE開催が計画されていたこともあり、「国際化」による「交流人口」に着目していました。

「国際化」を推進することによる「交流人口」の増加は、MICEだけでなく当時は観光による「交流人口」に非常に注目されていた頃でもあり、観光、特に国外からの観光客の来静による経済効果と、それに伴う「定住人口」増加による人口増大が期待されていました。

※「MICE」についてはp.10参照

### 2020年「Road to Million2020」

#### 改定時時代背景

pp.5-6「静岡市が抱える課題と戦略」でもありますように、人口減少を前提としたまちづくりに大きくシフトチェンジしています。また、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的大流行(パンデミック)によって、「国際化」、特に「交流人口」の増加が計画通りにはいかなくなっております。

また、次ページに記載のSDGsなど地球規模課題への取り組みを意識した運動の機運が高まっており、今後もその傾向は加速化していくことが想定されています。

静岡市のグローバルをローカルに引き寄せる「グローバルな地方創生」と同じく、これからはグローバルな視点で地域(ローカル)のために行動することができる人財の育成がまちづくりの重要な柱となってきております。

## SDGsについて

SDGs(エスディーゼーズ:Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っています。



SDGsは様々な価値観を持つ多種多様な世界の人々が「地球益」という共通の目的を共有し取り組むことができ、一つの世界共通の指針となります。

SDGsを積極的に取り組むことで、まち・企業・個人の信頼度も高まります。静岡市は「SDGs未来都市(日本政府)・SDGsハブ都市(国連)」に選ばれており、SDGs先進都市として世界中から注目されていて、多くの企業も「ESG投資」や「D&I」とともにSDGsに積極的に取り組んでいます。

静岡青年会議所でも早い段階からSDGsに取り組み、団体としてだけでなく、会員一人ひとりへの落とし込みや市民への普及啓発運動を実施し、他人事ではなく自分事としてSDGsに取り組むことを推進しています。

SDGsの理念に基づいた人財育成が企業やまちのさらなる発展につながることは間違いなく、今後の普及啓発運動では、会員や市民に対して「認知」から「理解」、そして「行動」へとつなげていくよう全力で取り組んでまいります。

#### 「ESG投資」とは

従来の財務情報だけでなく、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)要素も考慮した投資のこと。

特に、企業経営のサステナビリティを評価するという概念が普及し、気候変動などを念頭においた長期的なリスクマネジメントや、企業の新たな収益創出の機会を評価するベンチマークとして、SDGsと合わせて注目されています。

#### 「D&I」とは

ダイバーシティ(Diversity/多様性)&インクルージョン(Inclusion/受容・包含)のこと。性別、年齢、国籍、性的指向、家族構成、障害の有無などの違いから生まれる様々な経験を多様性として受け入れ、尊重しながら最大限に活かしていくことで、企業と個人の成長につなげ、競争力を高めていく戦略や考え方として、多くの企業で取り組まれています。

# まちの国際化の必要性

## 静岡市の国際化

ICT技術や移動手段技術の発展や、交通インフラの整備により国境を越えた人やモノ、カネ、情報の交流が盛んとなって社会的にも経済的にも地域を越えて世界規模での結びつきが深くなっています。国だけでなく地域や企業が国際化することで経済的メリットだけでなく、優秀な人財の交流による新しい様々な可能性が生みだされます。

静岡市でも海外との交流を通じて「地域経済の活性化」や文化交流を目的とした積極的な地域外交を実施しています。特に本市は東アジアの玄関口となる富士山静岡空港に近接し、国際拠点港湾である清水港、さらに観光の「ゴールドルート」と言われる観光ルートの中央に位置し交通利便性の高い利点を活かして、「訪日外国人観光客の誘致」「訪日教育旅行の誘致」「外国客船の誘致」を推進し、「交流人口」の拡大と海外との経済・文化交流に取り組んでおります。静岡市ではそのほかにも多様性を成長につなげ、地域社会や世界で活躍する人財の育成などに取り組んでいます。

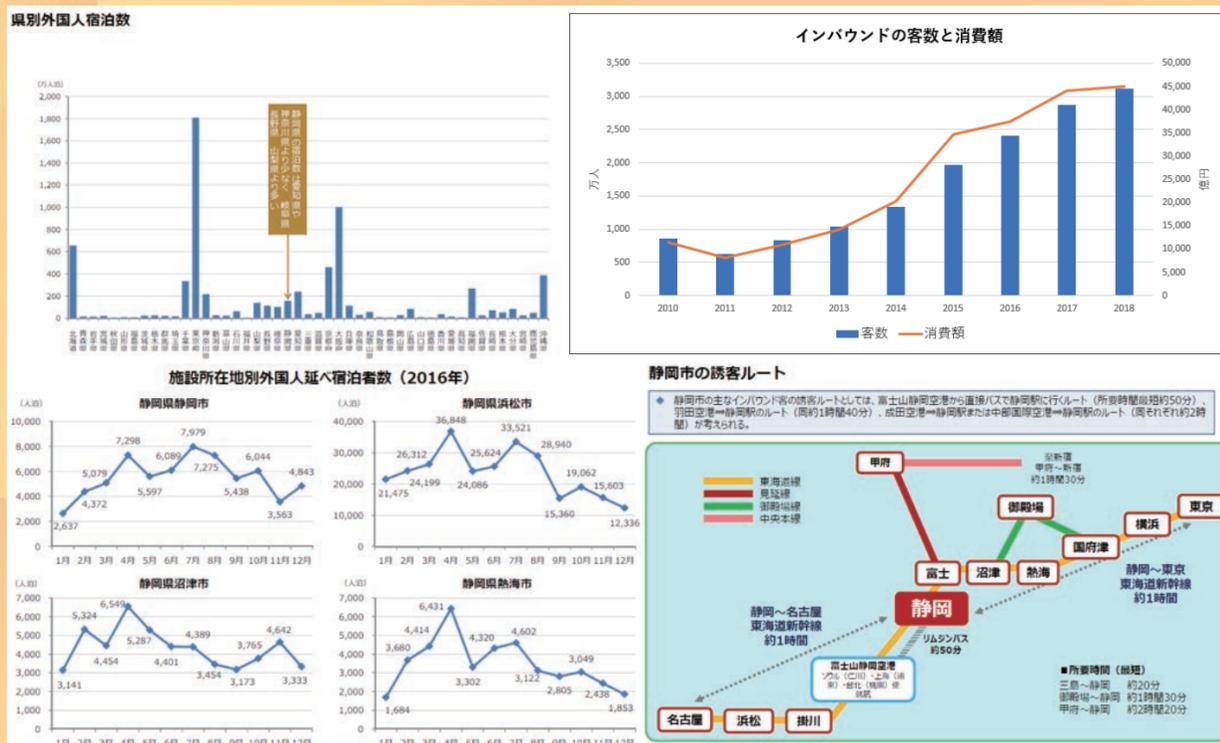
## 国際化の課題

国際化によって生じる問題もあります。外国人との共生によって生じる衝突やトラブルはどうしてもあります。静岡青年会議所ではそのような問題解決に向けて、多文化理解、異文化の相互理解を進めていくことで、より人財の活発な交流による成長につなげ、まちづくりにつなげていくことを目的に「地球市民運動」や多文化共生社会の実現をめざした運動を毎年実施しております。

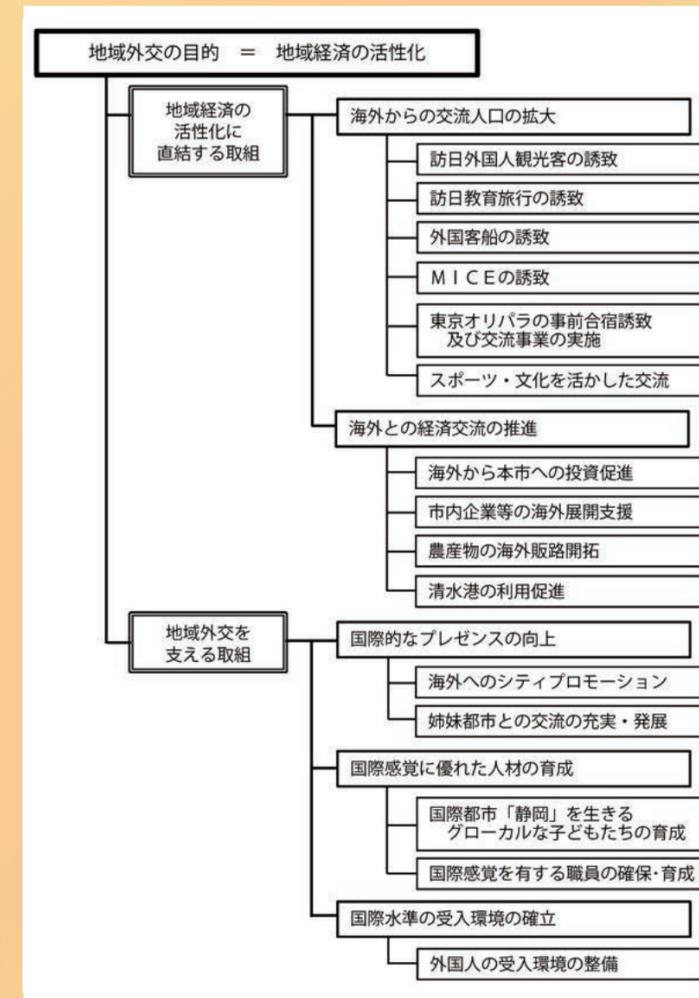
また、観光によるインバウンド効果のみに依存せず、静岡市のプレゼンスを世界に高め、人財交流の活性化のためにもMICE誘致が重要となってきます。静岡市は積極的にMICE誘致を推進しており、静岡青年会議所でも日本青年会議所(JCI日本)が開催するMICEである「国際アカデミー」開催をめざしております。

※「国際アカデミー」についてはpp.35-36参照

このように、国際化は「ひとづくり」「まちづくり」に必要不可欠な要素であり、静岡青年会議所では静岡市と協力して推進してまいります。



△「数字で見る静岡県静岡市のインバウンド」から抜粋



△静岡市地域外交基本方針から抜粋

## “ MICE とは ”

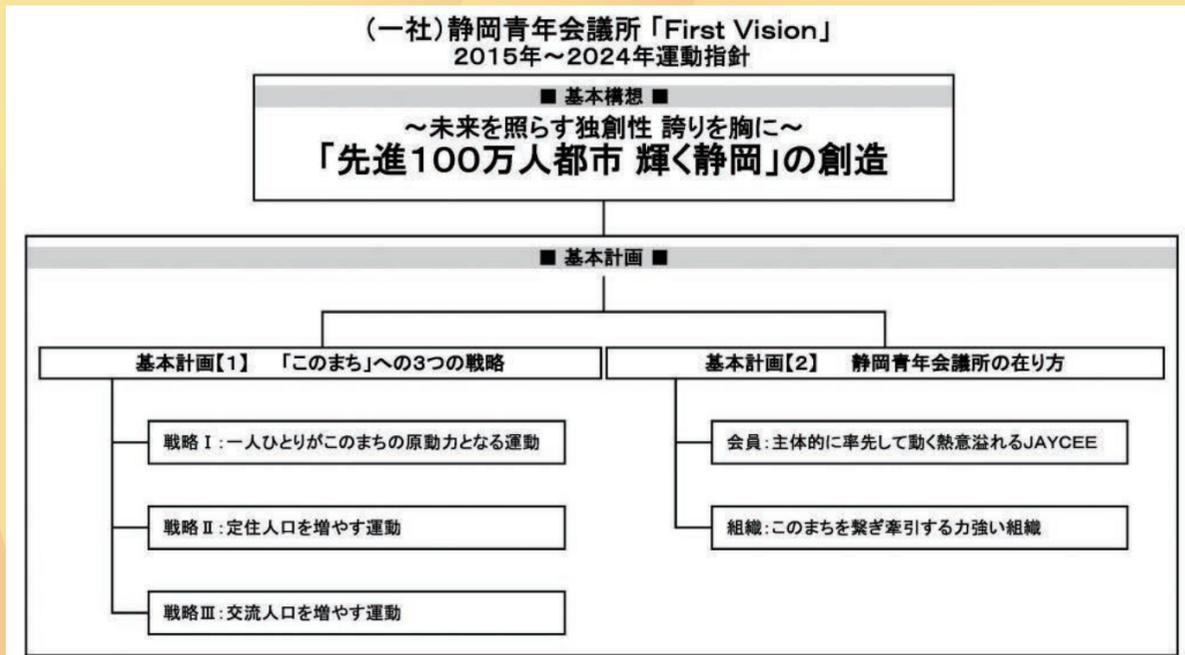
企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語。

ビジネストラベルの一つの形態であり、参加者が多いだけでなく一般の観光旅行に比べ消費額が大きいことなどから、MICE 誘致に力を入れる国や地域が多く、静岡市や静岡青年会議所でも積極的に誘致活動を行っております。

## “ 日本青年会議所(JCI日本)とは ”

明るい豊かな社会の実現を目的とする日本各地 (692 か所) の青年会議所を会員として組織した公益社団法人。国際青年会議所 (JCI) に加盟。

## 時代に即した戦略の検討



△策定時「First Vision」

2020年、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的大流行(パンデミック)により、日本も静岡市も大きな影響を受け、今後もその影響はしばらく続くことが予想されます。

政治的にも経済的にも社会的にも大きな変動期を迎え、常識が非常識に、非常識が常識になるとうとしている現在、さまざまな戦略や計画が改革を余儀なくされています。特に、感染予防により人と人の交流が縮小されてしまうことで、これまでの観光を中心とした国際化推進などは厳しいのが現状です。

また、p.7でも述べられているとおり、戦略策定当初と現在では大きく背景が異なっております。人口増・経済上昇を重視した社会システムは大きく変化し、SDGsなど地球規模での価値を意識した“量”から“質”を求める時代に变化しております。

**First Visionの課題**  
【2014～2016年策定時の背景】  
全国的にまちの人口減が大きな課題となっていた。  
※まちの主たる目的：**人口増・経済上昇**  
そこで目的は「**100万人都市**」  
目標を「**静岡市の国際化**」に設定し、  
インバウンド需要(交流人口)をターゲットに。

【2014～2016年策定時の背景】  
戦略：**ひとづくり+人口増**  
【2020年の背景】  
人口増や経済性の追求の時代から  
**SDGs**など地球規模での価値を考える時代に。  
※量から**質**を求める時代  
**ひと**  
**「人財づくり」⇄「まちづくり」**  
の考え方にシフトチェンジ

p.6にもありますとおり、静岡市の戦略も大きく変化し、「まち・ひと・しごと創生」に沿った戦略に再構築されました。

特に着目すべきは、「地域社会や世界で活躍するグローバル人材を育成」です。“グローバルをローカルに引き寄せ、グローバルな地方創生”をめざす考え方は静岡青年会議所の考えとも合致しております。

そして、「人口活力の維持及び持続可能なまちの実現」という目標を達成するためにも、「定住人口」のみに頼らず「交流人口」に加え、「関係人口」の概念も取り入れることは、私たちが掲げる『「先進100万人都市 輝く静岡」の創造』を実現するために必要不可欠となります。

静岡青年会議所でも2020年の改定に伴い、『「First Vision」・「Road to Million」検証・改定会議』を全三回実施し、これらの戦略を見つめなおしてきました。

静岡青年会議所初のWeb会議形式での事業

- ・ **第1回検証・改定会議**  
6月25日(木) 19:00～22:00
- ・ **第2回検証・改定会議**  
7月30日(木) 19:00～22:00
- ・ **第3回検証・改定会議**  
8月27日(木) 19:00～22:00  
※新型コロナウイルスの影響によって  
集まるの会合での開催が難しく、  
全3回とも「Zoom」によるWeb会議方式にて開催。

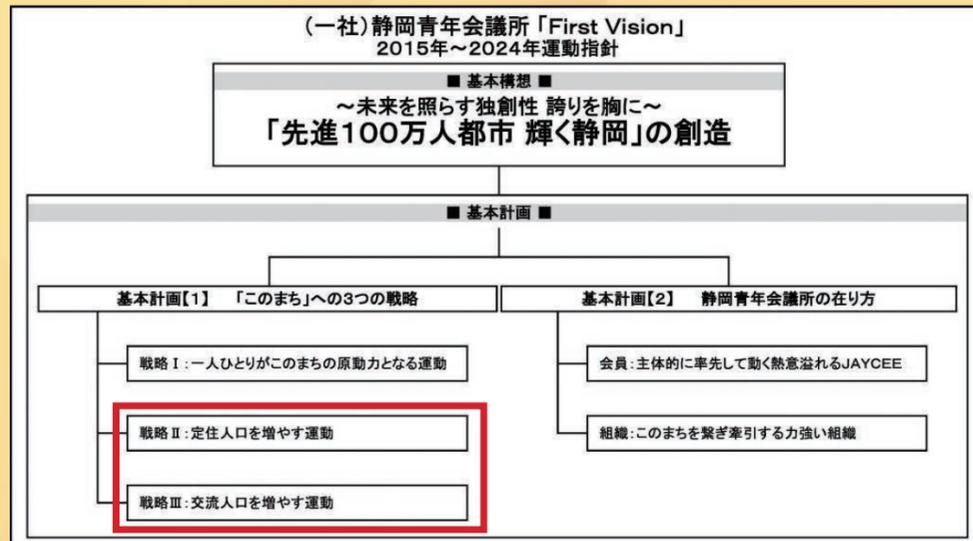
### 会議テーマ

- ・第1回検証・改定会議  
「会議目的再確認と静岡青年会議所・静岡市の現状」
- ・第2回検証・改定会議  
「静岡青年会議所の課題と改定(案)について」
- ・第3回検証・改定会議  
「静岡市の課題と改定(案)について」



△『「First Vision」・「Road to Million」検証・改定会議』(Web会議方式「Zoom」にて開催)

## 戦略II 戦略IIIの見直し



pp.11-12を踏まえ、静岡青年会議所では2020年の改定に伴い、『「先進100万人都市 輝く静岡」の創造』という目的を達成するための戦略を改定しました。これまでの“人口”という点に注目していた戦略から、それらは戦略達成のための手法として残しながらも、静岡青年会議所の基本理念でもある「ひとづくり」「まちづくり」と変更することで人財育成と持続可能なまちの創造にシフトチェンジしていきます。

静岡青年会議所では2020年～2024年にかけて、まずはコロナ禍での盤石な組織づくりを実施しながら、会員と市民の育成に重点を置いて取り組んでまいります。会員が育てば会員が市民を巻き込み、市民もさらに成長する。魅力的な人財が育てば魅力的なまちづくりが進みます。

魅力的な人財とまちには自然と定住・交流・関係人口が集まってきて増加し、その結果さらに質の高い人財が育つことで魅力ある持続可能なまちの創造を実現し、この「ひとづくり」と「まちづくり」が相互に好循環した結果『「先進100万人都市 輝く静岡」の創造』が実現するものだと考えます。

なお、このサイクルを実現するためにも私たちは「Think Globally, Act Locally～グローバルな視点でローカル(地域)のために行動しよう～」な人財が必要不可欠と考えており、これはまさに静岡市の「グローバルな人財育成」とも合致することから、今後はこのような人材育成と行政や市民との協働体制をより深めることによる波及効果と相乗効果をめざして、新たに「Road to Million2020」を策定し運動してまいります。

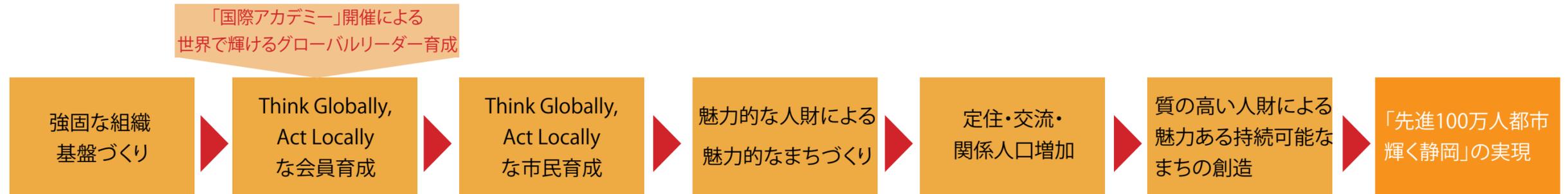
### Think Globally, Act Locally

～グローバルな視点で、ローカル(地域)のために行動しよう～

SDGsの理念のもとグローバルな視点を持ち合わせて地域で活躍できる人財を育成し、周囲を巻き込んでいく(協働)ことで市民の成長を促してまちの発展につなげていきます。

その結果、まちの魅力が高まることで人財が集い、定住・交流人口が増加し、魅力ある持続可能なまちの創造へとつながる好循環化をもたらします。すべては「ひとづくり」「まちづくり」から始まります。

静岡青年会議所  
中間計画目標



# ロードマップフローチャート

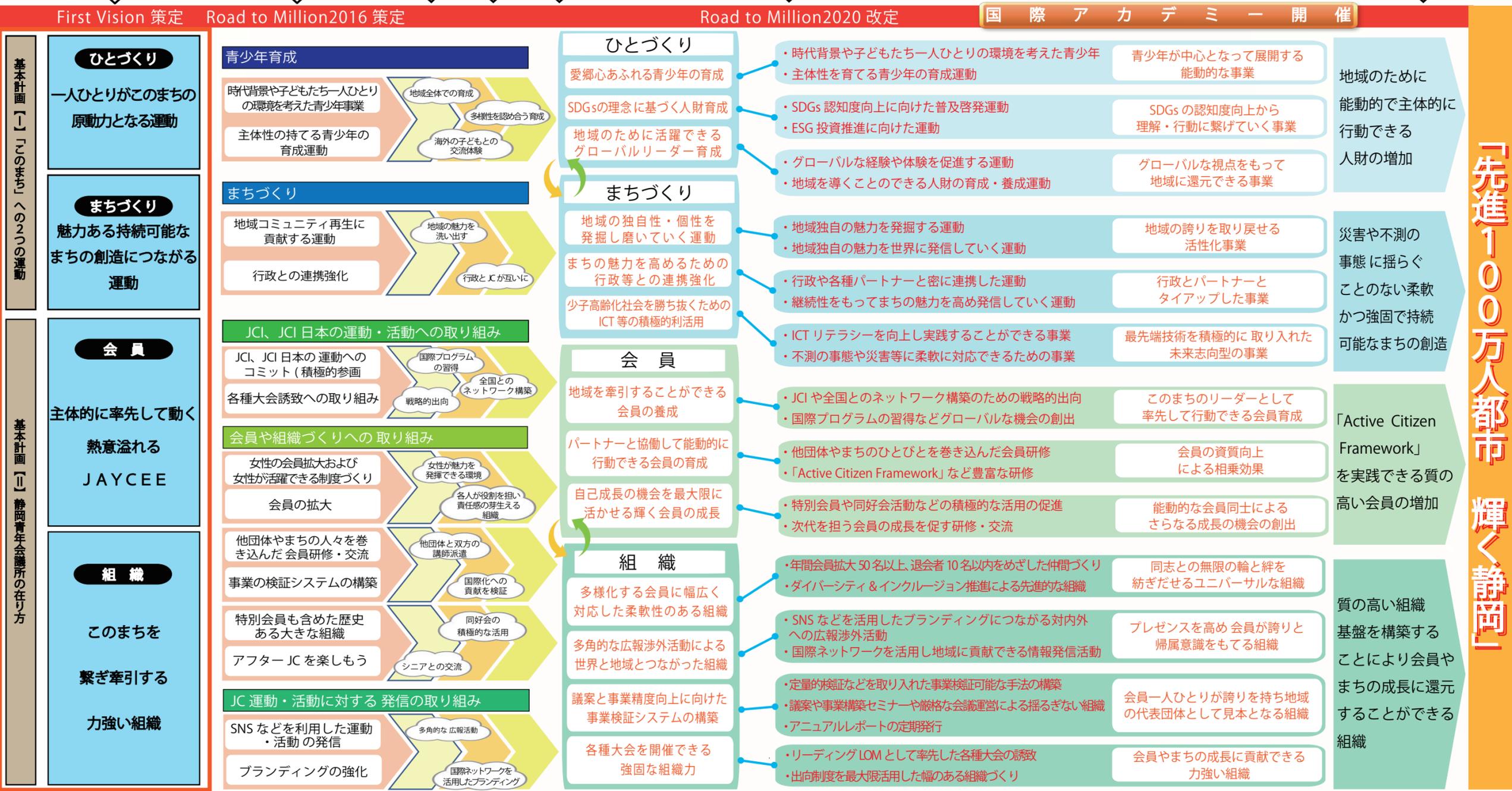
静岡青年会議所  
中間計画目標

「国際アカデミー」開催による  
世界で輝けるグローバルリーダー育成

**JCI 国際アカデミー**  
 ①Think Globally, Act Locally な人財の育成  
 ②魅力ある持続可能なまちの創造  
 ③First Vision(Ver. 2020)「4つの戦略」に最も大きなインパクトを与え  
 ④その結果、「先進100万人都市 世界に輝く静岡」の実現を最も効果的に達成することができる手法のため誘致・開催する。

JCI 日本が毎年開催する世界 80 か国以上の次代を担う  
ニューリーダーを日本の開催地に集めて行う未来の  
地域で活躍できるグローバルリーダーを育成するため  
の「ひとづくり」「まちづくり」セミナー

**Think Globally, Act Locally**  
 ～グローバルな視点で、ローカル(地域)のために行動しよう～  
 SDGsの理念のもとグローバルな視点を持ち合わせて地域で活躍できる人財  
を育成し、周囲を巻き込んでいく(協働)ことで市民の成長を促してまちの発展  
につなげていきます。  
 まちの魅力が高まることで人財が集い、定住・交流・関係人口が増加すること  
で、魅力ある持続可能なまちの創造へとつながる好循環化をもたらします。  
 すべては「ひとづくり」「まちづくり」から始まります。



「先進100万人都市 輝く静岡」

## 青少年育成への取り組み

### 時代背景や子どもたち一人ひとりの環境を考えた青少年事業

核家族化が進み、地域のネットワークが希薄化している中で、このまちの子ども達に対して、青少年事業を通じて一過性の取り組みではない継続的な関わり合いが求められています。地域に密着している団体の強みを活かし、かつて地元有志が積極的に活動していた「子ども会」の取り組みに代表されるような、子ども一人ひとりの顔が見え、頼り頼られる信頼関係が芽生えることが重要です。

それは、子ども達を地域全体で育成していく環境を再構築することにもつながります。地域の子ども達は、このまちの未来を担う人財です。そして、国際社会に対応した人財とならなければなりません。

国際組織である青年会議所は、海外の子どもや静岡在住の外国人との交流といった貴重な体験を通じて、子ども達が早い段階から国際感覚を身につけられる取り組みを展開する必要があります。

#### “ 青少年育成とは ”

未来のこのまちの担い手となる子ども達の育成に取り組み、子ども達が必要な力を育むことができるように、例えば、職業体験やキャンプ等様々な事業の企画・運営をしています。

会員も青少年育成事業を通じて多くの子ども達と触れあい、親として成長します。



△JC 旗争奪青少年サッカー大会



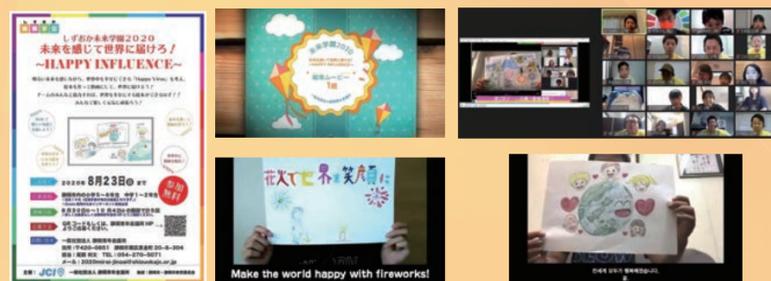
△青少年育成事業



△しずおか未来学園

△わんぱく相撲 静岡場所

- |  |               |
|--|---------------|
| 2006 「夢と心」をテーマに独自の学校を創造し、「夢」の手助け       |               |
| 2007 田畑耕作                              | 親子での富士登山      |
| 2008 職業体験学習                            | 駿河丸を通じて郷土学習   |
| 2009 2泊3日の静岡徒歩                         |               |
| 2010 神津島キャンプ                           | 職業体験学習        |
| 2011 被災した子ども達との交流                      | 職業体験学習        |
| 2012 自衛隊入隊訓練                           | 職業体験学習        |
| 2013 屋久島キャンプ                           | 産業技術を伝える      |
| 2014 西伊豆キャンプ                           | プロジェクトアドベンチャー |
| 2015 キッズCMコンクール                        | 子ども達が描く未来予想図  |
| 2016 真夏の入江の海賊キャンプ                      | しずアイ・プレコン     |
| 2017 異文化コミュニケーション                      | 世界は一つの村       |
| 2018 オクシズネイチャーキャンプ SDGs 意識改革プロジェクト     |               |
| 2019 育もう!! 生きる力と豊かな心                   |               |
| 2020 未来を通じて世界に届けろ! ~ HAPPY INFLUENCE ~ |               |



△コロナ禍でも ICT を駆使して世界中と交流 (2020年)

### 主体性を育てる青少年の育成運動

ICTや移動手段の発達により、急速に国際化社会が進展するなか、国際化社会に対応した青少年の育成が求められています。急激に変化する社会に適用し、子どもたちの未来への可能性を大きく広げるためには、子どもたちが前向きに物事を考え、取り組む姿勢が不可欠です。子どもたちが夢中になり、なにごとにも積極的に取り組むことによって、子どもたちは見違えるほど成長することができます。

静岡青年会議所は、主体性を育てる青少年の育成運動を通じて、子どもたちの未来の支えになり、生きるための力を大きく伸ばす青少年の育成に取り組んでいきます。



△VSOP 運動 (2017年)



△JCT (JC Teacher)



△静岡市への留学生との協働事業 (2019年)

#### “ LOM とは ”

Local Organization Member の頭文字をとったもので、JCI 日本の中に属する各地青年会議所のこと。

#### “ VSOP とは ”

Volunteer Service Oneday Project の略で、企業や商店、団体が本業を通じて定期的に地域へ社会貢献を行う運動のこと。

#### “ JCT(JC Teacher) とは ”

静岡市内の各学校・施設から依頼をいただき静岡青年会議所会員が青少年たちに、自分たちの人生や仕事などに対する想いや考え方を話すことで、青少年たちと自分たちの成長につなげる運動です。

# まちづくりへの取り組み

## 地域コミュニティの再生に貢献する運動

人口減少や少子高齢化が進み消滅可能性が危惧される地域が無数に存在する中、静岡市も同じ問題を抱えています。たとえば、町内会(自治会)、子ども会、まちおこし団体などの地域コミュニティで人と人とのつながりが薄れつつあります。

地域コミュニティを再生するためには、まず、静岡青年会議所が「First Vision」で掲げる「一人ひとりがこのまちの原動力となる運動」が必要です。地域の発展のため行動できるアクティブシティズンを増やしていかなければなりません。

同時に、静岡青年会議所が「First Vision」で掲げた「魅力ある持続可能なまちの創造につながる運動」を展開するなかで、誰もが住みやすいまちをつくること、また地域の魅力を洗い出し、付加価値を高めて発信することが重要です。



△しずおかの交通インフラ発展シンポジウム  
～結束への道～ (2018)



△インフラ整備署名運動と国土交通省への要望



2016年度	あさはた沼フェスタ ～地域の宝を五感で満喫しよう！～ Shizuoka City Beauty Style 2016
2017年度	大谷まちなみ竹あかり ～あるいて楽しむまちあかり～
2018年度	しずおかの交通インフラ発展シンポジウム ～結束への道～
2019年度	SDGs推進事業～このまちの未来を共に創造しよう～ 映画『Bond～このまちしか君を知らない』 発信による愛郷心創造事業
通年	行政との連携 静岡まつり、清水みなと祭り 建国記念式典



△静岡を舞台としたまちづくりドラマ映画  
「Bond～このまちしか君を知らない～」(2019)

## 行政との連携強化

まちづくり団体である私たちは毎年複数の事業や活動を実践しています。「First Vision」実現のためにも、グローバルな視点を持ちながら地域により深く根ざした運動を展開していくことが必要不可欠であり、そのためにも行政との連携を強化して継続性のある運動を実践する必要があります。

私たちのロードマップ「Road to Million2020」と第3次静岡市総合計画との親和性を活かし、行政との密な連携を強化すべく、「JCにしかできないこと」を今一度考え、「行政がJCに望むこと」、「JCが行政に望むこと」を一致させ、ともに協力してよりインパクトのある事業を展開し、私たちの住むまちをリードしていかなければなりません。



△壮大なる中期ビジョン創案へのプロローグ (2013年)

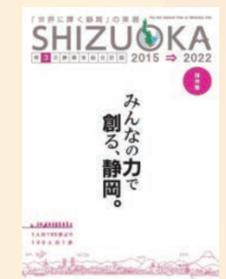


△静岡市と連携した SDGs の普及啓発運動を実施 (2020年)

## 第3次静岡市総合計画

2015年～2022年における静岡市のまちづくり基本計画。まちの将来像を示すとともに、市政を総合的、計画的に運営するために、各分野における計画や事業の指針を明らかにしたものです。

最優先施策群である「5大構想」を明示するとともに、世界共通のものさしであるSDGsの視点で事業を推進する意義や、実施計画を人口活力維持に特化して再編した総合戦略も、総合計画の中に位置付けられています。



## JCI日本、JCIの運動・活動への取り組み

### JCI日本、JCIの運動へのコミット

JCI日本、JCIは、日本全国、世界各地の志を同じくする青年経済人が集まり、時流をとらえた各種運動を展開しています。さらに様々なプログラムやチャンス、出会いが存在します。変化のスピードが速くグローバル化が著しい今日、JCI日本、JCIの掲げる方向性に沿った運動、特に国際色のある事業を静岡でも実施していくことは大切です。

またJCI日本、JCIの大会に積極的に参加することや、国際グループの委員会に毎年多数の出向者を計画的に輩出することで、1つのLOMだけでは経験することができない多くの学びを得ることができます。これが更なる人材の成長や人的ネットワークの構築につながり、そこで得られた情報をもとに、静岡青年会議所や、わがまち静岡を、一層国際色溢れるまちへと引き上げていくことができます。



△サマーコンファレンス 2019



△全国大会 (2020年)

#### “ JCI日本、JCIの大会とは ”

京都会議、サマーコンファレンス、全国会員大会、地区会員大会、ブロック会員大会等。JCIの大会はASPACや世界会議等。

#### “ 出向者とは ”

各地青年会議所より国際青年会議所・日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出向していく会員のこと。

#### “ 戦略的出向とは ”

静岡青年会議所の中長期計画である「First Vision」を実現するために、LOMに経験や情報を還元し、さらにJCI日本内での静岡青年会議所への信頼を高め、各種大会誘致を実現するための計画的出向のこと。



△JCI JAPANA 少年少女国連大使 (2019)

### 各種大会誘致への取り組み

私たちの住むこのまちの発展と私たちの組織、会員一人ひとりの成長のために大きなインパクトをもたらす事業、特にMICEのような各種大会の誘致は静岡青年会議所の取り組むべき課題のひとつと言えます。それにはJCI日本への計画的な出向が大変重要となります。私たちメンバーには出向の機会が多くあり、そのチャンスは平等に与えられています。出向はLOMでは体験できない経験や価値観を得ることができると同時に、全国各地にメンバー同士の「つながり」を築くことができます。この「つながり」は各種大会や事業誘致にとって、大きなプラスとなるはずです。

また、各種事業、大会を誘致・開催することは、行政と諸団体、そして市民との協働体制の構築が不可欠であり、この活動自体が「まちづくり」の一端を担います。



△JCI JAPAN 国際アカデミー

#### “ インバウンドとは ”

外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。これに対し、自国から外国へ出かける旅行をアウトバウンド (Outbound) または海外旅行という。

#### “ ASPACとは ”

ASPAC…Asia Pacific Area Conference の略。  
アジア太平洋エリア会議。

	国際アカデミー	全国大会 ASPAC 世界大会
行政との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>助成金</li> <li>通訳ボランティア、ホストファミリーの募集</li> <li>会場の手配などのサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元警察による交通整理等の協力</li> <li>広報・インフォメーションの協力、後援</li> </ul>
市民の関わり	<p>のべ数千人。通訳ボランティア、ホストファミリー、オープンモジュールへの参加、訪問先小学校の生徒など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催するプログラムによるが限定的</li> </ul>
まちとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場の提供</li> <li>地元の各種組合、PTA 連合会、大学などによる後援</li> <li>地元企業を中心とした協賛</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場の提供</li> <li>協賛</li> <li>各種団体などによる後援、広報計画への協力</li> </ul>

## 会員や組織づくりへの取り組み

### 他団体やまちの人びとを巻き込んだ会員研修・交流

静岡青年会議所の会員がより一層成長していくため、これからの会員研修・交流には、国内外の他団体や地域の人々を巻き込んだ研修・交流が必要です。例えば、他団体と双方で講師を派遣しあう機会や、国際会議のセミナーや分科会への参加、海外の JC と合同の研修など様々なことが考えられます。

また、静岡青年会議所の例会・事業については、積極的に公開とすることで、静岡青年会議所が行う運動を地域に発信するとともに、地域の人たちに学びの場を提供することができます。

他団体や地域の人々と合同で研修・交流を実施することは、私たちが単独で実施するよりも緊張感があり、これまでにない議論や新たな学びが得られることが期待されます。



△大谷まちなみ竹あかり (2017)



△SDGs for School (2018)



△シズオカ × カンヌウィーク  
「マルシェ DE ルネッ茶ンス」(2018)



△なすびグループ × 静岡市 × 静岡青年会議所  
「家族の絆 SDGs で過ごすひと時」(2018)

#### “ 会員研修とは ”

このまちの明るい未来を見据え青年会議所運動・活動に邁進する会員の一人ひとりが世界へ輝けるまちへ導けるリーダーにならなければなりません。現状を知り、今何が求められ、今後何が必要とされるのか読み解き人びとを導く重要性を学びます。

#### “ 会員交流とは ”

会員同士が一つの大きなネットワークでつながり、育まれる絆によって、より強固な人間関係が構築できます。役職や委員会という枠組みにとらわれない人間関係を築くため情報発信や懇親会の機会を活用し、活発な交流をしていきます。

#### “ 公開例会、公開事業とは ”

例会や事業に市民の皆さまに来ていただくことがあります。公開例会、公開事業により、市民の皆さまに宛てた情報発信をしています。また、例会や事業を公開することで市民の皆さまが青年会議所を知り理解していただく機会にもなります。

### 特別会員も含めた歴史ある大きな組織

静岡青年会議所には新設前の旧3LOM(静岡・駿河・清水)の時から、多くの先輩達作り上げてきた長い歴史があります。新設後も多くのメンバーが特別メンバーとして私たちの運動・活動を見守ってくれています。しかし現在は現役会員と特別会員とのつながりの希薄化が懸念されており、それは先輩方が築き上げた伝統ある静岡青年会議所の運動・活動の想いを継承する機会が少なくなることを意味しています。特に、今後大きな大会やプログラムを開催するには、特別会員の方々のサポートが必要となります。

特別会員の方々と協働してまちづくり運動を展開することで、私たちは先輩方への感謝とこのまちへの想いを受け継ぐことができます。次代へ伝える使命感を継続して持ち続け、自己の成長を続けることで、私たちのまちづくり運動は加速していきます。



△卒業例会 (2019)



△卒業例会セレモニー (2018)



△卒業大懇親会 (2018)



#### “ 特別会員とは ”

静岡青年会議所を卒業された経験豊富な OB・OG のこと。

#### “ JC 魂とは ”

基本理念にある明るい豊かな社会を実現するために活動する青年会議所に集う人が本音で話し合い、お互いを信頼し、本気で活動に取り組む活動。行動綱領としての「トレーニング、サービス、フレンドシップ」の JC 三信条を基軸に率先して行動すること。

## 会員や組織づくりへの取り組み

### 女性の会員拡大や多様な会員が活躍できる制度づくり

世界を見渡すと、一人ひとりの女性のライフステージに応じて女性が魅力を持ち活動できる環境が整えられています。青年会議所も同様に女性が活躍する場が増え会員数も増加傾向にあります。

私たちの静岡青年会議所でも女性会員は増えており、女性会員の拡大活躍できる制度づくりをより一層推進していくことが求められます。

また、会員が多様化するなかで、子育てで自分の時間がない、仕事と家庭の両立が精一杯など静岡青年会議所や他団体での活躍が難しい現状もあります。女性会員や多様な会員の環境に応じて活躍しやすいようにICT等を駆使してインフラを整えることで、私たちの運動に多彩さを持たせていくことが可能です。

#### “全国JC なでしこ女子部会”

青年会議所の特性と強みを活かしながら、女性の力を伸ばしていく運動とソリューション、品格ある女性経済人の育成に注力している女性部会。青年会議所の理念に立脚し、その効果や生じた課題などのデータを本会へフィードバックし、トライ＆エラーができる有機的な組織づくりを目的として活動しています。



### 会員数推移(男女)



△静岡青年会議所会員推移 (2015年～2019年)

### 平均年齢推移

年度	男性会員	女性会員	会員総計	男性会員平均年齢	女性会員平均年齢	総合平均年齢
2006年	255	12	267	35.78	34.66	35.73
2007年	264	15	279	35.95	34.13	35.86
2008年	268	17	285	35.69	33.82	35.58
2009年	266	17	283	35.68	35.52	35.67
2010年	254	17	271	35.81	35.94	35.82
2011年	250	17	267	36.02	35.7	36
2012年	258	19	277	36.32	35.15	36.24
2013年	265	23	288	36.33	35.73	36.29
2014年	267	25	292	36.22	34.56	36.07
2015年	269	27	296	36.11	34.96	36
2016年	246	25	271	36.21	34.8	36.08
2017年	201	18	219	34.11	36.32	36.14
2018年	189	19	208	35.89	35.47	35.85
2019年	176	16	192	36.07	36.43	36.1
2020年	129	8	137	36.7	35.37	36.6

△静岡青年会議所会員平均年齢推移 (2006年～2020年1月)

### 事業の検証システムの構築

単年度制である青年会議所では、多くのメンバーは限られた予算・時間・人員の中で初めての事業を企画・実施します。したがって、任された事業に対して会議で検討を重ね、実施後には詳細な検証を行い、次年度に引き継がなくてはなりません。そのようなサイクルを重ねることで事業の質が向上し、運動がより実効性を持つことができます。検証については、構成や設えの評価以外に例会・事業がどのように静岡の国際化に寄与したのかを検証することも大切です。 ※「検証の方法と頻度について」はpp.33-34参照。

また、外部の評価という点においてはJCI日本の褒章事業に申請し、AWARD獲得に挑戦することも非常に意味のあることです。AWARD獲得を目指して私たちが展開する運動を全国、全世界のJCメンバーに向けて伝播することは、より力強いJC運動を展開し静岡市を国際都市へと飛躍させていくうえで重要です。

#### 静岡青年会議所の過去のAWARD申請事業

2013年	地方自治部門
11月度第一例会～静岡JCが描くこのまちの未来～	
2014年	地域開発部門
「しずおか未来学園2013」～すんげえ～新聞社～	
2013年	地域開発部門
「しずおか未来学園2013」～つながり続いていく、ぼくらの道～	
2013年	ビジネス開発部門
静岡を感じる月間～静岡市民の心ひとつに～	
2014年	人材育成部門
6月度第一例会「利他・人間尊重の生き方」～戦後復興を支えた先人たちの熱き心を学ぶ～	
2014年	WEB・広報活動部門
安全なまち構築訓練～明日動けるようになるために～	
2015年	青少年部門
10周年事業「しずおか未来学園2015～しずおか大好き♡キッズCMコンクール～」	
2015年	地域環境活性化部門
「10周年記念まちづくり事業」静岡礼賛～心に宿せ！このまちの誇り～	
2016年	青少年・人材育成部門
しずおか未来学園2016～しずアイ・ブレコン“Shizuoka Idea Presentation Contest”～	
2016年	地域環境活性化部門
2016年度10月度事業 あさはた沼フェスタ～地域の宝を五感で満喫しよう！～	
2017年	地域環境活性化部門
2017年度10月度第二回例会「日本一女性が働きやすいまち静岡」の創生に向けて～子育てサミット～	
2019年	最優秀LOM地域社会向上プログラム
映画のキャラで静岡の魅力を未来へ繋ぐ！私たちの映画「Bond」	



△JCI 日本 THE PROJECT BIBLE (事業バイブル) 2016より抜粋

#### “ 褒章 (AWARD) とは ”

青年会議所活動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その栄誉を全国に発信し、各地青年会議所がこれらの事業を参考に新たな気づきや学びを得る機会とすることを目的としています。

#### “ 日本JC への褒章申請とは ”

各地青年会議所より申請され、優秀な事業等に贈られる褒賞のことで、毎年、全国会員大会においてアワードセレモニーが開会される。「しずおか未来学園 2015～しずおか大好き♡キッズ CMコンクール」がブロック優秀賞を受賞しました。



# 会員や組織づくりへの取り組み

## アフターJCを楽しもう

近年、組織を構成する会員の年齢層に変化がみられます。入会から卒業までの期間が10年以上もあるような会員は激減し、会員の平均的な在籍期間が短くなっています。これにより限られたメンバーのみの交流だけで卒業を迎えてしまう会員が増えています。

静岡青年会議所は国内でも会員数の多い有数のLOMであり、他のLOMと比較してもより多くの会員と交流を深める場が存在するにも関わらず、在籍年数が短いことからつながりを持つことのできるメンバーが限られてしまう現状は残念です。

今後はこうした現状を今一度見直し、同好会・クラブ活動への入会の促進や、JC活動以外でメンバーが集まる場を提供する等、アフターJCへの注力が望まれます。これにより、今まで以上に委員会を越えて、より多くの会員と交流し絆を深めることが、個人の財産となり、ひいては組織力の向上にも繋がります。

### “ アフターJCとは ”

JC行事以外でメンバー同士が交流を行う場。同好会、クラブ活動、懇親会、またはメンバー個々での集まりの場など。



△自転車クラブ「Giro」



△SJFC 静岡フットボールクラブ



△野球部「グレンズ」



△駿府太鼓振興会



△じゃがいもクラブ



△野外活動家族交流研究所（アウトドアクラブ）

## 会員の拡大

明るい豊かな社会の実現のために志を同じくする仲間をより増やし、より運動・活動を活性化させることも重要です。しかしながら、若年層の人口の減少とともに会員数の増加に伸び悩みを感じています。また、同様に会員数の問題だけでなく、会員の在籍年数が短くなる傾向にあり、いわゆるベテラン会員の現状等から組織は厳しい状況にあるといえます。

静岡青年会議所には、①「1つの目的に向かって高め支え合う仲間を得られる」②「地域のために活躍することができるリーダーとして自己成長することができる」などの魅力があり、個人の成長と組織力強化のためにも同志づくりが欠かせません。静岡青年会議所がよりよい組織となっていくためにも、若年層の同志の輪をより大きく広げ、会員の拡大をこれまで以上に推し進めていくことが必要です。さらには、会員一人ひとりが、JCだからこそできる体験・経験をしていくことが何よりも大切です。会員一人ひとりが委員会・LOM・出向先で様々な役割を担うことで、自然に責任感や楽しさを感じることができ、日常では持ち得ない広い視野を身につけることが出来ます。個人からまちへ、まちから日本へ、日本から世界へと国際組織ならではの経験を得ることができます。メンバー一人ひとりが様々な知見を得ることができます。在籍年数の長期化を進めることで、会員にはより多くの経験ができるチャンスが得られ、ひいては会員の資質向上と理事の資質向上へとつながり、より強固な組織体制へと繋がります。

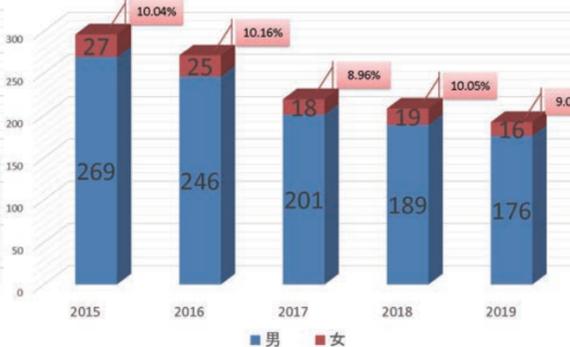
### 会員数推移

年度	理事長名	年初会員数	入会員数	卒業生数	年末会員数① (年初会員数+入会員数)	年末会員数② (①-卒業生数)	退会者数
2006	鈴木秀幸	231	36	19	267	248	13
2007	杉山茂之	235	44	45	279	234	11
2008	久住与志人	223	62	30	285	255	22
2009	佐野博美	233	50	31	283	252	18
2010	藤田圭亮	234	37	31	271	240	23
2011	青野博志	217	50	31	267	236	14
2012	三浦新介	222	55	41	277	236	14
2013	藤田尚徳	222	66	37	288	251	15
2014	鎌田幸太郎	236	56	40	292	252	21
2015	花森崇行	231	65	42	296	254	25
2016	瀬口勇一郎	229	42	46	271	225	33
2017	海野洋平	192	27	34	219	185	20
2018	栗山勝訓	165	43	26	208	182	20
2019	飯塚潤	162	30	34	192	158	21
2020	山本正博	137	50	24	187	163	

### 会員数推移



### 会員数推移(男女)



## JC 運動・活動の発信についての取り組み

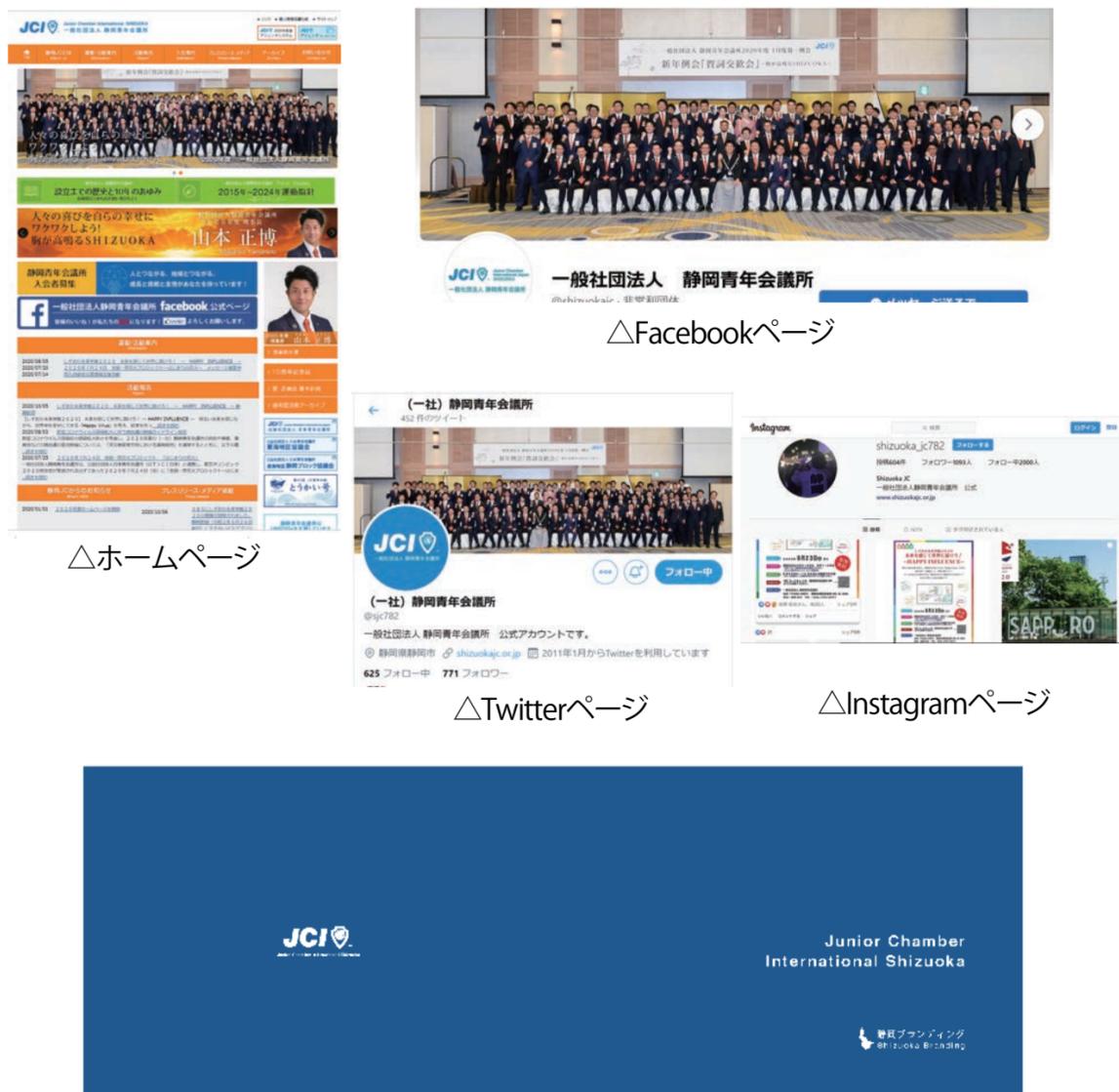
### SNS などを利用した運動・活動の発信

静岡青年会議所運動を市民に向けて積極的に発信していくことは重要な課題です。情報化社会の現在では、ホームページ、フェイスブック、ツイッター、ラインといった各 SNS など、さまざまなツールが存在します。

静岡青年会議所の運動は、いくつもの事業等が同時進行していくことから、リアルタイムに情報を発信できる仕組みを対象者ごとに構築していかなければなりません。

また、発信のツール以上に発信する内容がより重要になります。発信する情報は青年会議所について全く知らない方にとっても理解できる内容でなければなりません。メンバーを取材して紹介することも、このまちの人びとや新入会員に静岡青年会議所をより理解してもらうには有効です。

さらには、今後のより一層の国際化、国際アカデミーの開催等を見据えて、国際的にも静岡青年会議所の活動を発信していく仕組みを検討しなくてはなりません。



### ブランディングの強化

静岡青年会議所として私たちの運動に共感した同志が運動に加わり、その想いを伝播させながら運動を連鎖させていくためにも、私たちの運動を国内外に発信して、自らをブランディングしていかなければなりません。「SNSなどを利用した運動・活動の発信」とも連動し、静岡青年会議所の魅力が「伝える」のではなく「伝わる」こと、そして想いの共感を増やしていくためのブランディングを強化して取り組んでいます。

たとえば、私たちが行う事業について、プレスリリースや記者会見を行うことも有効な手段です。あらゆるツールや手段を講じてブランディングを強化していくことで、私たちの運動への信頼度も一層高まり、より大きなインパクトを与えられる事業を展開できるようにつなげていきます。



△記者会見風景 (2019)

“ 記者会見やマスコミ発信 ”

年頭の各種媒体への理事長挨拶掲載や、各事業、特に対外向けの事業に関して積極的に記者会見や投げ込み等を実施していくことで、静岡青年会議所の運動についての認知・理解してもらえよう取り組み、私たちに魅力を感じ、私たちと共に歩みたい会員やパートナーとなる同志が増えるようにブランディングを強化しています。



△各種媒体を活用したブランディング (2020)

## アクティブシティズンフレームワーク

### ～持続可能なインパクトを生み出すために～ JCI アクティブシティズンフレームワークの実践

#### 1. JCI アクティブシティズンフレームワークとは

JCI アクティブシティズンフレームワーク (JCI Active Citizen Framework) は、「世界中の地域へ持続可能な解決策を提示し、インパクトのある事業を生み出すための運営手法」です。

これは、JCI (国際青年会議所) の 100 年の歴史が生み出した英知であり、JCI は、このフレームワークにしたがって「行政」「企業」「民間」の全ての分野を繋ぐ原動力となり、より良い変化を生み出しています。

#### 2. JCI アクティブシティズンフレームワークの概要

JCI アクティブシティズンフレームワークで述べられている概略は、地域の需要を割り出し、持続可能な解決策を策定し、協力団体とともに行動を起こしながらも検証を行うことです。

これは全て持続可能性を確実なものにするための段取りです。

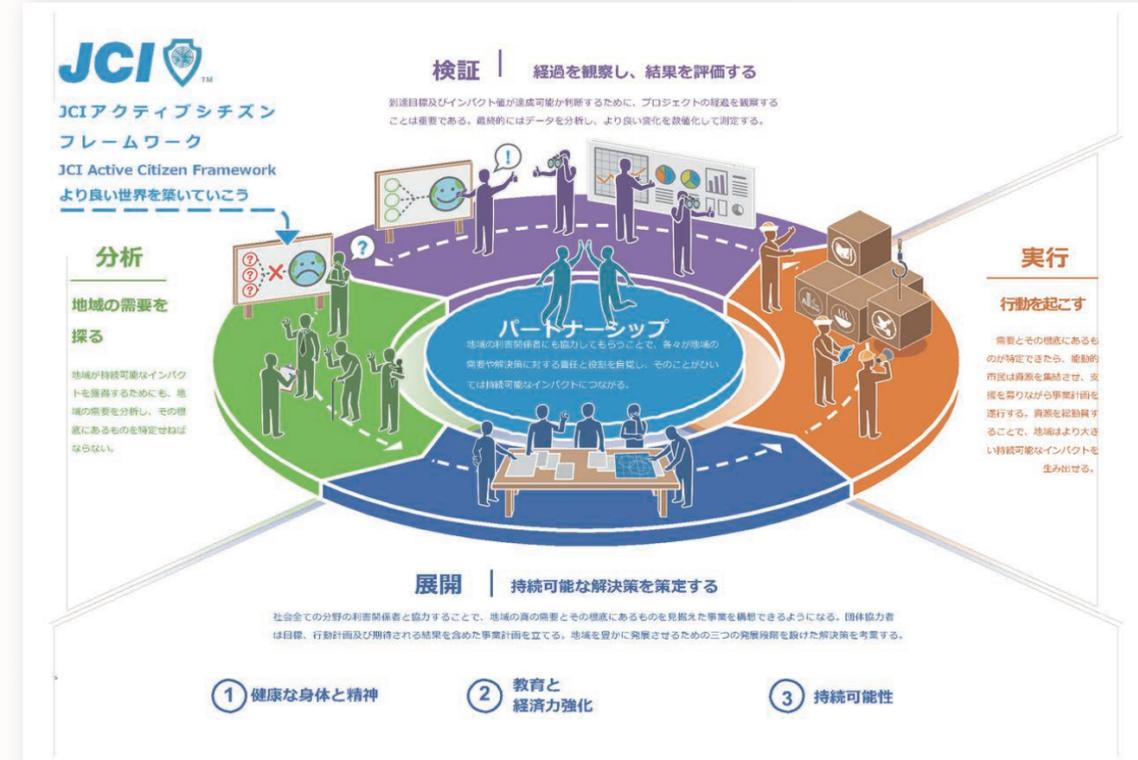
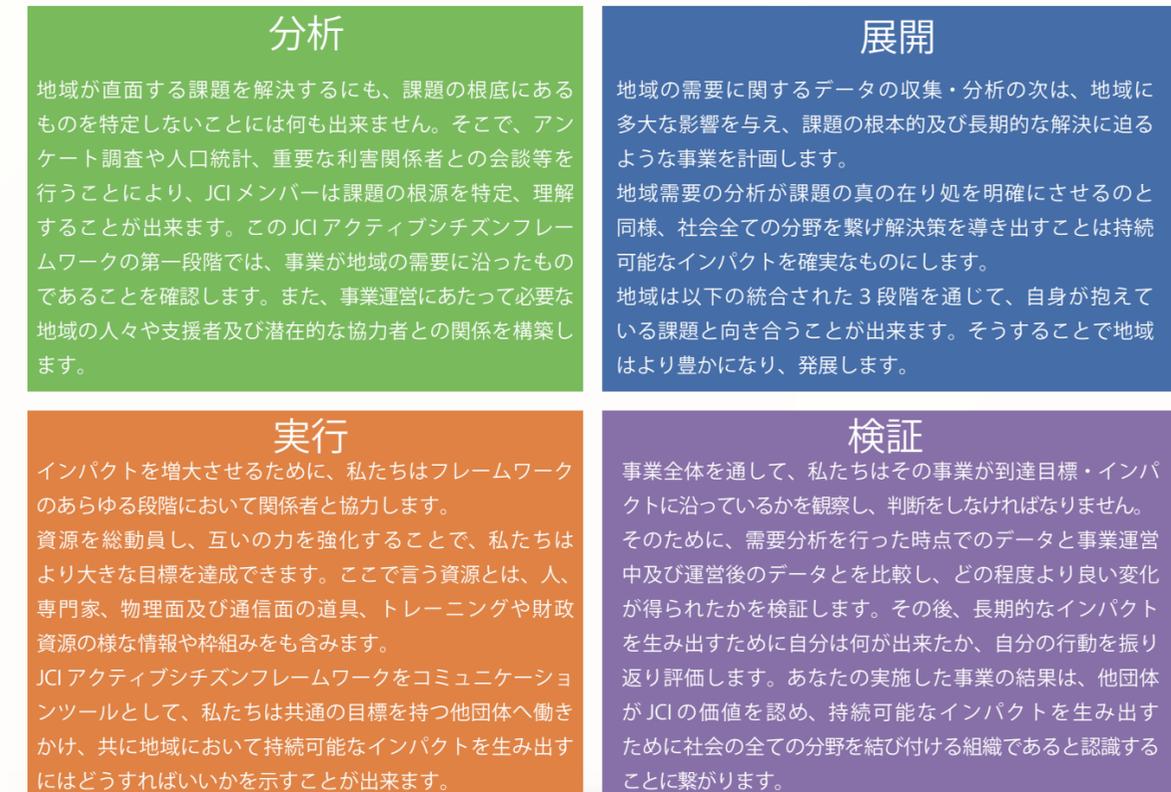
JCI では、各地青年会議所により運営される事業を、全てこのフレームワークに則って行うよう推奨しています。

#### 3. 静岡青年会議所における JCI アクティブシティズンフレームワークの実践

JCI アクティブシティズンフレームワークの活用は、持続可能なインパクトを生み出すため、そして社会の全ての分野を結び付ける組織になるために必要です。静岡青年会議所では、この JCI アクティブシティズンフレームワークを会員が理解し活用することで、持続可能な解決策を提示し、インパクトのある運動を行っています。

若き能動的市民の先導的なグローバルネットワークとして機能するためには、JCI は思考、言葉、行動そして結果の全てにおいて卓越していなければなりません。JCI はグローバルな発展を先導できる唯一の団体です。

次の4ステップを課題を共有するパートナーと共に行います。





## 国際アカデミーの誘致の意義と効果

### 国際アカデミーとは..

約 80 か国の各国青年会議所の代表者が、毎年、日本に集まり、日本全国の青年会議所の参加者と共に、相互の理解と友情を深めて、所属する地域・組織のため活躍する人財を育成する研修事業



モジュール (講義)



日本文化体験プログラム  
(観光・食文化体験)



開催地プログラム  
(学校訪問)

#### 【開催実績】

国際アカデミーは、1987年アムステルダム世界会議でJCI公認行事として承認されて以来、毎年、日本青年会議所のメイン事業として、日本で開催され、これまでに、約3,000名以上の卒業生（グローバルネットワーカー）を輩出してきました。

開催年/開催地 (2015年度以降のもの)	国内参加者 (男性・女性)	海外参加者 (男性・女性)
2015年第28回国際アカデミー (東京)	91名 (72・18)	76名 (41・35)
2016年第29回国際アカデミー (水戸)	90名 (70・20)	76名 (49・27)
2017年第30回国際アカデミー (熊本)	93名 (79・14)	79名 (55・24)
2018年第31回国際アカデミー (姫路)	128名 (95・33)	78名 (47・31)
2019年第32回国際アカデミー (軽井沢)	90名 (69・21)	74名 (46・28)
平均	100名 (79・21)	77名 (48・29)

#### 参加者に対する効果

- ・世界各地から集まった参加者同士の相互理解が得られる。
- ・各国青年会議所の代表者とネットワークを構築できる。
- ・世界とのつながりを活かして所属する地域・社会の発展のため取り組む人財を育成する。

#### 日本青年会議所に対する効果

- ・各国青年会議所に日本に対する理解を広めることができる。
- ・国内会員に対し、国際的な研修の機会や、海外参加者との友情・相互理解を深める機会を提供することができる。

#### 国際アカデミー開催地域に対する効果

- ・ホームステイ、学校訪問、開催地の観光を通じて、世界から集まった参加者に開催地域の文化や魅力や見どころを伝えることができる。
- ・世界中に開催地の支持者（ファン）を作ることができる。
- ・開催地域・市民の国際意識を向上させ、開催地域の国際化を推進して、交流人口増加に向けた基盤を形成する。
- ・世界とのつながり、世界からの知識を地域発展のため活かして、行動する人財を育成する。

#### 日本全体への効果

- ・世界中に日本の支持者（ファン）を作ることができる。
- ・約80か国の国々との民間外交を促進し、恒久的かつ永久の世界平和を確立に貢献する。



静岡青年会議所が、国際アカデミーを誘致することによって、

「まちの国際化を推進」し、

「Think globally, Act locally な人財をより多く育成する」

だけでなく、

First Vision の戦略に最大のインパクトを与え、

「先進 100 万人都市輝く静岡」達成に大きく前進することができます。

静岡青年会議所 歴代理事長・スローガン

初代



鈴木 秀幸  
新たな歴史のスタートに  
挑もう 夢あるまちづくり  
創ろう 未来の静岡

第4代



佐野 博美  
自らを律する  
～今こそ始めよう みんなで創る  
夢溢れるしずおか～

第7代



三浦 新介  
～原点回帰～  
現在(いま)を生き抜くJAYCEEの使命を胸に  
描こう「魅力溢れる未来」紡ごう「誇り高き静岡」

第10代



花森 崇行  
歴史と誇りを胸に 更なる飛躍へ  
踏み出そう 新たな一歩  
創ろう 次代のSHIZUOKA

第13代



栗山 勝訓  
胸の中の火種を变革の炎に  
誰もが明るい夢を思い描けるまち静岡へ  
イノベーションを巻き起こせ

第2代



杉山 茂之  
更なる飛躍の出航(とき)に  
創ろう 心の時代  
築こう 誇りある静岡(まち)

第5代



藤田 圭亮  
今こそ 足元を見つめ  
挑もう 新たな自分づくり  
創ろう つよいShizuoka

第8代



藤田 尚徳  
わがまちから日本を再生する  
和の精神で築き上げる  
「輝きを放つまち静岡」

第11代



瀬口 勇一郎  
勇猛果敢に挑戦  
「躍動するまち静岡」

第14代



飯塚 潤  
つながりが紡ぎだす豊かな心  
創ろう 明日の笑顔が溢れるしずおか

第3代



久住 与志人  
志高く  
この静岡(まち)の未来を描こう  
次代を担うJayceeとして

第6代



青野 博志  
自身の一念の变革  
利他の心で創る  
思いやり溢れる あたたかい静岡

第9代



鎌田 幸太郎  
つよさに裏打ちされた  
真のやさしさを育む  
支えあうことで築く「希望あふれる静岡」

第12代



海野 洋平  
シフトチェンジ!!  
「愛し 愛されるまち 静岡」へ  
新時代を切り拓け

第15代



山本 正博  
人々の喜びを自らの幸せに  
ワクワクしよう!胸が高鳴るSHIZUOKA  
(今できることを全力で 行動しよう!  
新型コロナウイルスに負けない静岡)

静岡青年会議所の歩み

- 1951年 各地青年会議所の総合調整機関である日本青年会議所の設立。
- 1953年 旧清水市を活動の中心とする清水JCの設立。
- 1954年 旧静岡市を活動の中心とする旧静岡JCの設立。
- 1975年 旧蒲原町、旧由比町を活動の中心とする駿河JCの設立。
- 2005年 清水、旧静岡、駿河の3つのJCが解散。
- 2006年 社団法人静岡青年会議所の設立。
- 2007年 第34回JC青年の船「とうかい号」事務局主管 市民討議会「voice of しずおか」の開催。
- 2008年 しずおか未来学園 社会体験夢学校の開催。
- 2009年 静岡市内の中学校などでJCT(職業講話)開始。
- 2010年 静岡青年会議所5周年記念式典開催 記念事業として中国で「静岡一、受けたい授業」開催。職業体験事業(しずおか未来学園)が、文部科学大臣からキャリア教育優良団体として表彰される。
- 2011年 東日本大震災における義捐金寄付 第38回JC青年の船「とうかい号」事務局主管。
- 2012年 東日本大震災における被災地活動。社団法人新潟青年会議所(現:一般社団法人新潟青年会議所)と「災害時相互支援協定」を締結。
- 2013年 一般社団法人静岡青年会議所へ法人格を移行 韓国・仁川青年会議所との姉妹JC締結。
- 2014年 「First Vision」(2024年までの運動指針)を策定。
- 2015年 静岡青年会議所10周年記念式典・記念事業の開催。第31回全国JCサッカー選手権大会・静岡大会開催。
- 2016年 「First Vision」実現のための戦術(アクションプラン)「Road to Million」策定。
- 2017年 子育て支援事業「子育てしやすい環境の創生に向けて」開催
- 2018年 国道1号線バイパス蒲原興津間代替道路早期実現に向けて、12,032筆の署名を国土交通省へ提出する。
- 2019年 愛郷心創造事業・静岡市初・市民映画「Bond～このまちしか君を知らない～」製作・プロデュース。わんぱく相撲・静岡県大会主管。
- 2020年 新型コロナウイルス感染予防啓発運動、新型コロナウイルスに負けない静岡への取り組み。「First Vision」・「Road to Million」検証・改定。

「Road to Million2020」

(2020年12月10日 2020年度12月度定時総会 承認)

(一社) 静岡青年会議所 「First Vision」・「Road to Million」 検証・改定会議メンバー  
山本正博・増田哲人・鍋田昌吾・朝波智文・赤石恒一・大瀧敬久・佐野拓也・清陀大真  
小倉圭太郎・高柳敦輝・古本健二・栗田泰吉・杉山健・西本健一・大滝正也  
大橋良史・櫻井敦也・杉山慶樹・熊澤拓喜・原健司・石田茂人・殿岡勇基・岡村太揮  
櫻井聖・佐藤洋希・益木宏康・大野朝子・尾関利文・野村哲也・齋藤佳代・後藤憲輝・大畑基  
小林裕規・内藤慶一(順不同)

検証・改定担当委員会: 世界への協働確立室 世界への協働推進委員会

担当副理事長: 赤石恒一

担当常任理事: 栗田泰吉

若月厚・吉川達志・芹澤覚・片平瞬太・大倉希穂・齋藤啓三・田畑浩司・成岡敬悟・花島航平  
洞口貴大・山本純・中村圭太郎・大島純・野崎弘樹・村松有希也・鈴木和樹・谷津真依

理事委員長(責任者)

白濱史教

表紙題字揮毫

栗田泰吉

一般社団法人 静岡青年会議所



Think Globally, Act Locally